

バスケットボール競技における初心者と熟練者の目線と状況判断

学生番号：2032025 氏名：鶴澤 真智

指導教員：山崎治 准教授

1. はじめに

バスケットボールは5対5で直接相手と対峙してゴールを争うゲームである。競技人口は2015年で4.5億人おり全世界で1位である。

本研究では、初心者と経験者とのバスケットにおける違いについて明らかにする。状況判断による違いが多いと考えたため、連携が求められる2対2を行う。そこで、アクションカメラを用いて撮影とアンケート調査を行う。

2. 準備

本実験で用意したものは、GoPro社製のアクションカメラHERO11Blackと味方と相手の区別がつくようにオフenseとディフェンスではゼッケンをきて色分けをする。また、2対2におけるシナリオを4通り考え協力者に提示し、何度か繰り返し行う。

3. 実験

3.1 方法

実験参加者： 本学千葉工業大学4年生 男性6名（経験者2名/初心者4名）が実験に参加した。

アンケート調査： 大学生18名（男性16名/女性2名）調査に協力した。

実験計画： 参加者にはあらかじめ用意したシナリオに沿って行い、その時の判断を自ら考え行ってもらう。

質問紙と設問の構成： Google Form を用いて質問紙を作成した。回答形式は選択式とした。

はじめに、性別の回答とバスケットボールを部活動・習い事・地域クラブやサークル等で取り組んだことがあるかどうか、プレイ経験の詳細として、累積経験年数と直近1年でのプレイ頻度について回答する設問を記載した。次に、静止画と動画を提示するのとともに、提示されたシーンでのアクションの選択と理由、またシーンから読み取れる情報（例えば、目の前の相手選手が警戒していることなど）に関する設問を記載した。

手続き： 実験参加者には千葉工業大学津田沼キャンパスのスポーツジム（1号館地下）で実験目的や調査の内容について説明を行い、撮影に協力してもらった。アンケートへの回答はオンラインで個別にももらった。アンケートへのリンクやQRコードを作成し、協力者に提示した。調査対象者は各自のパソコンやスマートフォン、iPadなどでQRコードのスキ

ャンまたは、リンクをブラウザ上に入力しアンケートにアクセスしてもらった。

3.2 結果

初心者と経験者が静止画1の画像におけるアクションを選択した結果を図1に示す。動画1に対するアクションを選択した結果を図2に示す。

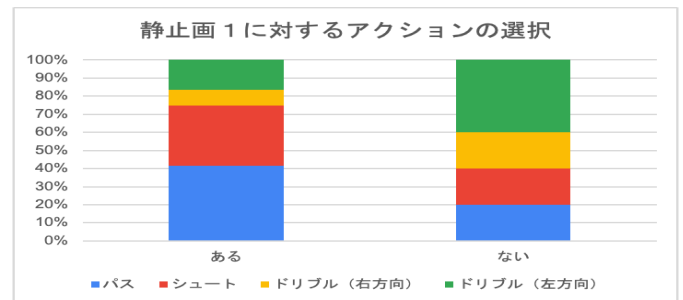


図1 静止画1に対するアクションの選択

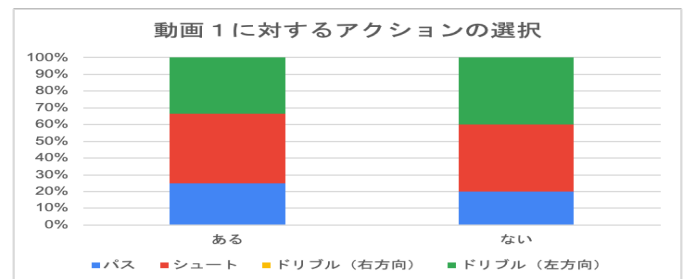


図2 動画1に対するアクションの選択

この設問の選択肢は「パス」「シュート」「ドリブル（右方向）」「ドリブル（左方向）」の4つである。図1の結果より、バスケットのプレイ経験がある方が「パス」「シュート」を選択する人が多いことがわかる。図2の結果より、バスケットのプレイ経験が「ある」「ない」人共に「シュート」「ドリブル（左方向）」が多いことがわかる。

4. おわりに

本研究の目的は、バスケットで初心者に必要な視線の判断力の違いを経験者と比較することだ。静止画では、それぞれ選択に違いはあったが、動画ではほとんどが同じ回答になった。しかし、初心者と経験者も一つの選択でまとまることはなかった。結果、初心者と経験者でさほど判断していることは変わらなかった。重要なことは違う選択をしてもその後の判断でゴールを目指すことと思いついた戦略を行動できる動きである。